

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部 土木局港湾課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 芝原平 (林健児)	内線	4440 (4455)
------	-----------------	---------------------	-------------------	----	----------------

事業種目	港湾事業	事業名	事業区間	総事業費	6.0 億円
		港湾改修 (防災安全対策)事業	姫路港 (浜田地区)	内用地補償費	0 億円
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
姫路市網干区浜田			H18	H18	H20
事業目的			事業内容		
<p>放置艇対策の推進 中播磨地域のプレジャーボート総数は約1900隻あり 放置艇は約1600隻存在し、航路障害、生活環境悪化等 の問題が生じている。プレジャーボート利用調整計画 に基づき、早期解消を目指し、ボートパークの整備を おこなう。</p>			<p>浮棧橋 3基(300隻) 泊地(-2m) 70,000㎡ 航路(-2m)(防波堤撤去) 40m 流出防止柵 320m 〔負担割合 国:4/10,県:6/10〕</p>		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性 安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> 放置艇解消により船舶航行の安全性が向上する。 災害時、放置艇による二次災害(流水障害、不法占用物件流出)防止を図る。 				
地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 中播磨地域プレジャーボート係留施設の充足率の向上(32.48%) 健全な海洋性レクリエーション活動の向上を図る。 				
快適性・ゆとり	<ul style="list-style-type: none"> 快適で親水性豊かな港湾景観の向上に寄与する。 放置艇による周辺住環境(騒音、排気ガス、不法駐車、ゴミ投棄)への悪影響を解消する。 				
その他	<p>姫路港のプレジャーボート係留施設の現況及び計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 網干沖BP 438隻供用中(空きバース206隻 収容率 53%) 145隻整備中 浜田BP 300隻計画中(本事業) 漁港、河川重複区域等において簡易係留施設約1000隻整備予定。 H16.10水尾川を放置等禁止及び重点撤去区域に指定し、156隻を網干沖BPに誘導中である。 今年度以降も順次規制区域を拡大していくが、H19年度以降、約300隻の収容施設が不足するため、本施設を整備するものである。 				
(2)有効性・効率性 有効性	<ul style="list-style-type: none"> 既存遊休施設の転用であり、有効活用がはかれるとともに、外郭施設整備等コスト縮減が可能である。 B/C=2.27 				
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 既存外郭施設が活用できるため早期に供用開始が可能である。 放置等禁止告示後の放置艇誘導により、既存施設も含め満隻となる見込み。 				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> 浮棧橋形式であるため海水の流れを阻害しない。 放置艇の整理集約により景観形成上有効である。 				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> 放置艇対策は全国的に社会問題となっており県の重要課題であり早期推進が必要である。 				